

「学びに向かう力」を育む少人数・習熟度別学習指導の実践

郡山市立郡山第五中学校

教諭 吉田 由美子

1 はじめに

将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会や、グローバル化が進展する社会に、どのように向き合い、どのような資質・能力を育成していくべきか。また、一人一人が幸福な人生を生きるためには、どのような力を育てていくべきか。この問いを土台に、本校では2018年より3学年の数学科において、習熟度別学習指導を取り入れた授業を通年で実施している。

習熟度別学習は、一般的に問題を速く正確に解くための知識を獲得する個別学習が主であるという印象が強い。しかし、学校の授業における最大の強みは、他者と協力しながら柔軟に問題解決を目指す協働的な学びが可能なことである。集団による学びの練り上げにより、思考に深まりをもたせ、確かな学力の定着とともに、学びに向かう力を育むことが期待できる。

本校での実践も含め、私自身のこれまでの経験から、少人数・習熟度別学習指導によって、学力の伸長をはじめ様々な効果が上げられたと考える。本校での実践を軸として、これまでの取り組みを紹介したい。

2 実践の内容・方法等

(1) 少人数・習熟度別学習のこれまでの実践

平成29年度	小学6年生：1学級を基礎、発展の2コースに分けて指導
平成30年度	小学5年生：1学級を2グループに分けて指導
	中学1年生：1学級を基礎、発展の2コースに分けて指導
令和2年度	中学2年生：1学級を基礎、発展の2コースに分けて指導
令和4年度	中学3年生：1学級を基礎、発展の2コースに分けて指導 2学級を基礎、発展の2コースに分けて指導
令和5年度	中学3年生：1学級を基礎、発展の2コースに分けて指導 2学級を基礎、発展の2コースに分けて指導

このうち、令和4年度および令和5年度が本校での実践となる。

(2) 本校での学習指導のアウトライン

- ① 各単元の始めにアンケートを実施し、生徒の自己選択によりコースを決定する。
- ② 場面に応じて「補充的な学習」や「発展的な学習」を取り入れ、学力向上を図る。
- ③ 評価については、授業態度、提出物状況、テストの結果（定期テスト、単元テスト）をもとに配点、観点を合わせ、どちらのコースを選択しても不利益が生じないように配慮する。

(3) 学習課題の工夫

身近な事象を数理的に考察できる学習課題を設定し、生徒が学習内容を自分事として主体的に考

えられるよう工夫する。

(4) 言語活動の充実

- ① めあて・・・生徒に考えさせ、生徒の言葉を引き出しながら本時のねらいにつなげる。
- ② 見通し・・・既存の知識（技能）と関連づけたり組み合わせたりできる工夫をしながら、個々の生徒のつぶやきを聞き逃さず、生徒の発した言葉を拾いながら考察につなげる。
- ③ 課題解決・・・発問を吟味したり、生徒の考えを周囲に広めたりすることに心がける。
教師の話は極力減らす。生徒の考えや思いを見取りながら本時のねらいにせまる。
- ④ 発表・・・子どもの思考を言葉にさせて、論理的に説明できるよう指導。
発表する生徒と聞く生徒をつなぎ、生徒の考えを認め、褒める。→意欲の向上
- ⑤ まとめ・・・生徒の言葉を利用し、数学的な用語に変換しながらまとめる。

(5) ICT 機器の活用

- ① デジタル教材の活用
動画やアニメーションによる解説により学習内容を確認したり、数値入力や画面タップにより問題場面を図、表、グラフで視覚的に捉えたりすることにより生徒たちの学びを深める。
- ② 情報の共有
タブレット端末の活用により、他者と考えを共有し、多様な考え方を知り、深い学びにつなげる。
- ③ 問題の配付
ロイロノートやスタディサプリの活用により、問題の提示や課題の配付を行う。

(6) 習熟（定着）を図る時間の確保

毎時間の授業において、生徒に自力解決の場面を設定し、学習内容の理解度を自ら確認させ、確かな理解につなげる。理解が不十分な生徒には、個別指導により支援する。

(7) 振り返りシートをもとにした授業づくり

授業の学習内容や、本時の成果、反省などを自分の言葉で記述し、学習を振り返る場面を設定する。また、教師は生徒の記述内容を授業づくりや授業改善につなげる。

3 実践の成果と課題

(1) 学習課題の工夫について

- 生徒の習熟度に応じた学習課題を設定し、生徒の学習意欲や興味関心を高める工夫を行った。
- 課題を解決するための方法や手順を明確にし、生徒が集中して学びに向かえるよう努めた。
- 統合的・発展的に考えたり話し合ったりするための課題設定の工夫をさらに図っていきたい。



(2) 言語活動の充実において

- 発問や問い返しにより生徒の思いや考えを引き出し、生徒の言葉をつなぎながら学びを焦点化し、主体的な授業展開を図った。
- 常に生徒が主体的に学びを展開していく授業を構想し、コーディネート



ネット力を養うために、日々の研究を継続していきたい。

(3) ICT 機器の活用について

○「デジタルコンテンツ」や「GeoGebra」を積極的に活用することで生徒たちの学びを深めることができた。

○タブレット端末を活用した問題の提示や課題の配付により、学習者は時間や場所を選ばず自学自習が可能になり、生徒の個別最適な学びの実現につながった。また、指導者の教材準備にかかる時間や手間も削減した。

○タブレット端末の活用により、学級の枠を超えて情報の共有が容易になった。他者に考えを伝えたり自分の考え方が紹介されたりすることで、学習意欲が高まった。



(4) 習熟（定着）を図る時間の確保について

○習熟度に応じた学習課題を準備し、知識・技能の習得を図る場面を設定した。

●授業内に習熟の時間を十分に確保できるよう、時間配分を意識した授業計画を行っていきたい。

(5) 振り返りシートをもとにした授業づくりについて

○生徒たちの記述をもとに、教師が自分の授業を振り返ることによって、そこから新たな気づき生まれ、授業の進度や指導方法など、今後の授業の方向性が明確になった。



【生徒の記録から】

2学年の復習をしていなかったのがとがめられた。

学びのつながりを意識した授業展開が必要である。既習事項を確認する場面を設定していきたい。

「 $2x$ をAと置く」がけ、こうむすかして $(3x)^2 = 9x^2$ なのに $6x^2$ と書いていたため、気づけました。

類似問題をミニテストに出題し、定着の確認を図っていきたい。

今日は $(x+1)^2=0$ の解き方を学びました。少しむずかしくて友達と話し合っただけで分かりました。うん。

ペアやグループでの学び合いにより課題解決につながった。

今日は、式の値についてやった。代入する前や後の計算ミスに気づけようと思った。

式の値を求める問題で計算ミスをする生徒が多く見られた。補充できる学習課題を準備していきたい。

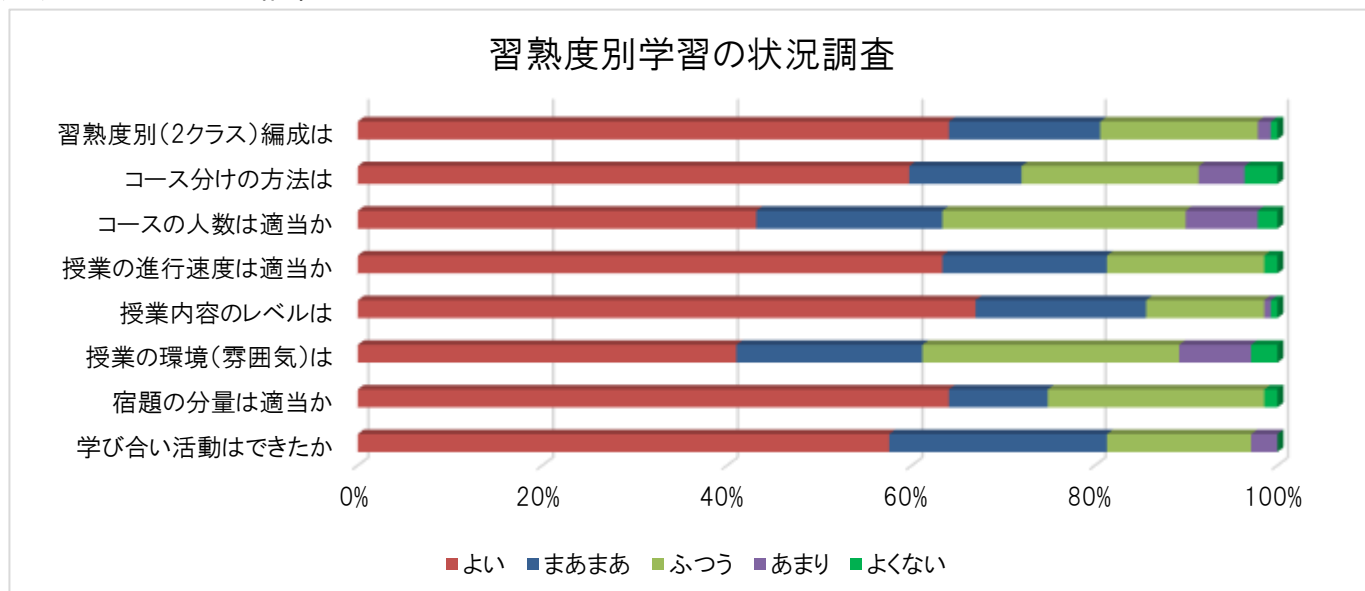
今日は、人々の日々の活動を振り返る。自分の考えを他人の考えに触れる機会も多かった。

身近な事象を数理的に考察することを通して、数学の有用性を実感できるような学習課題を工夫した。生徒個々の考えを比較したり交流したりする活動を取り入れ「思考力、判断力、表現力等」を高めることができた。

(6) 板書について

- 本時のめあて、見通し、思考過程、学習のまとめなど、1枚の板書を見て学習の流れが分かるよう、構造的な板書づくりを目指すことができた。
- 生徒の中にはその板書をタブレット端末で撮影し、学び直しに活用する姿も見られた。
- 生徒の様子から、板書の大切さを実感した。また、その日の学びを写真に収め、次時以降の授業において活用することも有効であることを発見した。

(7) アンケートの結果から



- 本調査から、習熟度別学習における指導において、多くの生徒が好意的に捉えているといえる。特に「習熟度別編成の実施」「授業の進行速度」「授業内容のレベル」についての評価が高く、上位クラス、下位クラスのいずれにおいても生徒たちは習熟度別学習の意義を理解し、納得しながら学習に取り組むことができたと判断できる。
- 教師の人数が限られておりコースが少ないことや、コース分けの方法が生徒の自己選択により決定しているという現状から「人数のバランス」や「授業の環境（雰囲気）」に課題が見られた。

4 おわりに

現在、習熟度別学習指導を通して、主体的に学習に取り組む態度や学びを人生や社会に生かそうとする能力（学びに向かう力）の育成を目指し実践を重ねているが、これらの実践の内容や効果は習熟度別学習に限ったことではない。

GIGA スクール構想による教育の ICT 化が進み、学びの方法やプロセスが多様化した今、新たな時代の学校システムのあり方が問われ、学校教育の変革への期待も大きい。私たち教師には、それぞれの生徒が自分にふさわしい学習方法を選択し、主体的に学習を進められるような力を身につけ、その態度を育てることが求められる。

中学3年生の生徒たちは、まもなく義務教育を終了し、大きな節目を迎えることとなる。自分自身と向き合い、自分にとっての最適な進路選択が迫られる。

将来的に、生徒たちが社会で有意義な生活を送ることができるよう、学びの中で自己肯定感をもたせ、人間関係を築く力を育てていきたい。そのためには、付け焼き刃的、対症療法的な実践でなく子どもたちの根の力を育む学びについて、日々研鑽を積んでいきたい。